

月経以外の出血が心配な方へ



不正出血(AUB: ABNORMAL UTERINE BLEEDING)は、子宮に異常がある場合とそうでない場合に大別されます

子宮に筋腫やがんなどの病気はなく、子宮外妊娠や流産など妊娠の異常もないのに子宮体部からの出血が続いている状態のことを機能性子宮出血といいます。「ホルモンバランスの乱れによる出血」といわれることも多く、あらゆる年代の女性で見られますが、卵巣の働きが不安定な思春期と更年期で比較的多くみられます。

更年期の女性が不正出血を繰り返す場合には、子宮筋腫や子宮がん（頸がん、体がん）などが隠れていることがあります。病気があっても一回の検査でははっきりしない場合もあり、重要な病気を見落とさないためにも検査をくりかえす場合もあります。

思春期など若い女性の機能性子宮出血の特徴

月経が来はじめて5年程度の若年女性にみられる不正子宮出血の大部分は、卵巣の機能が未熟なための無排卵周期による出血であり、この年代は子宮筋腫やがんはほとんどありません。

区別が必要な状態は、

- ①子宮や膣の先天性異常に伴う場合
- ②膣内の異物や外傷が原因になる場合（性的虐待の可能性）
- ③まれに予期していない妊娠（特に子宮外妊娠や流産など異常妊娠）などもありますので出血の経過や、出血にともなう他の症状などをよく確認することが重要です。

婦人科の「内診」は若年者には難しい場合も多く、可能な範囲で膣内の分泌物の検査や、腹部超音波検査やMRI検査などを行います。また、貧血、ホルモンの状態、出血が止まりにくくなる血液の病気を伴っていないかなどを確認するため、血液検査が必要になる場合もあります。

「無排卵周期」の診断は排卵の有無を確認することが必要で、基礎体温を測定・記録していただく場合もあります。

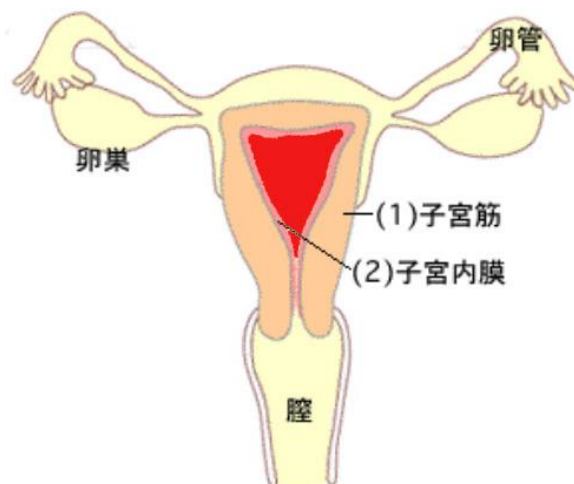


図1.子宮の構造 ((1)子宮筋と(2)子宮内膜)

更年期女性の機能性子宮出血の特徴

思春期と同様に、卵巣の働きが不安定であることによる無排卵周期による出血が多く、まれに予期せぬ異常妊娠による出血もありますが、年齢的に子宮筋腫や子宮がんにとまなう異常出血の可能性もありますので、内診・経膣超音波・細胞診（子宮頸がん・体がん）などのチェックをぜひお受けください。